

## 中部地区の県立高校の状況

## 1 募集学科・在籍生徒数等（令和7年度：全日制）

学校名	募集学科(定員)	募集 定員	全 校 学級数	在 籍 生徒数	備考
花 巻 北	普通(240)	240	18	658	
花 巻 南	普通(4学系：人文科学・自然科学120、スポーツ健康科学40、国際科学40)	200	15	569	
花巻農業	【農業】生物科学(40)、環境科学(40)、食農科学(40)	120	9	239	
花北青雲	【工業】情報工学(40)、【商業】ビジネス情報(80)、【家庭】総合生活(40)	160	12	441	
大 迫	普通(40)	40	3	51	
遠 野	普通(120)	120	9	294	R5 学級減
遠野緑峰	【農業】生産技術(40)、【商業】情報処理(40)	80	6	95	
黒沢尻北	普通(240)	240	18	639	
北上翔南	総合(160)（4系列：人文、自然、情報、環境）	160	14	416	R7 学級減
黒沢尻工業	【工業】機械(40)、電気(40)、電子(40)、電子機械(40)、土木(40)、材料技術(40)	240	18	418	
西 和 賀	普通(80)	80	4	136	R7 学級増

## 2 入試の状況

※網掛けは学級減等を表す

学校名	学科	R5				R6				R7			
		定員	総志願者	合格者	定員差異	定員	総志願者	合格者	定員差異	定員	総志願者	合格者	定員差異
花 巻 北	普通	240	241	225	▲15	240	248	226	▲14	240	223	217	▲23
花 巻 南	人文科学・自然科学	120	152	122	2	120	144	121	1	120	113	115	▲5
	スポーツ健康科学	40	52	40	0	40	48	40	0	40	42	40	0
	国際科学	40	31	33	▲7	40	38	40	0	40	24	24	▲16
花巻農業	生物科学	40	31	31	▲9	40	25	24	▲16	40	38	36	▲4
	環境科学	40	18	18	▲22	40	16	15	▲25	40	22	22	▲18
	食農科学	40	33	32	▲8	40	31	31	▲9	40	34	34	▲6
花北青雲	情報工学	40	31	39	▲1	40	34	35	▲5	40	28	28	▲12
	ビジネス情報	80	98	81	1	80	82	75	▲5	80	81	80	0
	総合生活	40	39	39	▲1	40	50	40	0	40	29	29	▲11
大 迫	普通	40	27	27	▲13	40	16	16	▲24	40	15	15	▲25
遠 野	普通	120	84	83	▲37	120	107	104	▲16	120	113	108	▲12
遠野緑峰	生産技術	40	36	36	▲4	40	26	25	▲15	40	21	21	▲19
	情報処理	40	8	8	▲32	40	5	5	▲35	40	8	8	▲32
黒沢尻北	普通	240	244	226	▲14	240	262	234	▲6	240	205	196	▲44
北上翔南	総合	200	156	154	▲46	200	153	148	▲52	160	127	126	▲34
黒沢尻工業	機械	40	27	25	▲15	40	37	37	▲3	40	29	29	▲11
	電気	40	22	22	▲18	40	29	28	▲12	40	27	25	▲15
	電子	40	22	21	▲19	40	27	27	▲13	40	25	25	▲15
	電子機械	40	31	30	▲10	40	29	29	▲11	40	26	24	▲16
	土木	40	17	17	▲23	40	24	24	▲16	40	13	13	▲27
	材料技術	40	22	22	▲18	40	14	13	▲27	40	13	14	▲26
西 和 賀	普通	40	31	29	▲11	40	49	44	4	80	69	67	▲13
中部地区計		1,680	1,453	1,360	▲320	1,680	1,494	1,381	▲299	1,680	1,325	1,296	▲384

### 3 市町村の中学校卒業者の推移 (R7. 5. 1 時点)

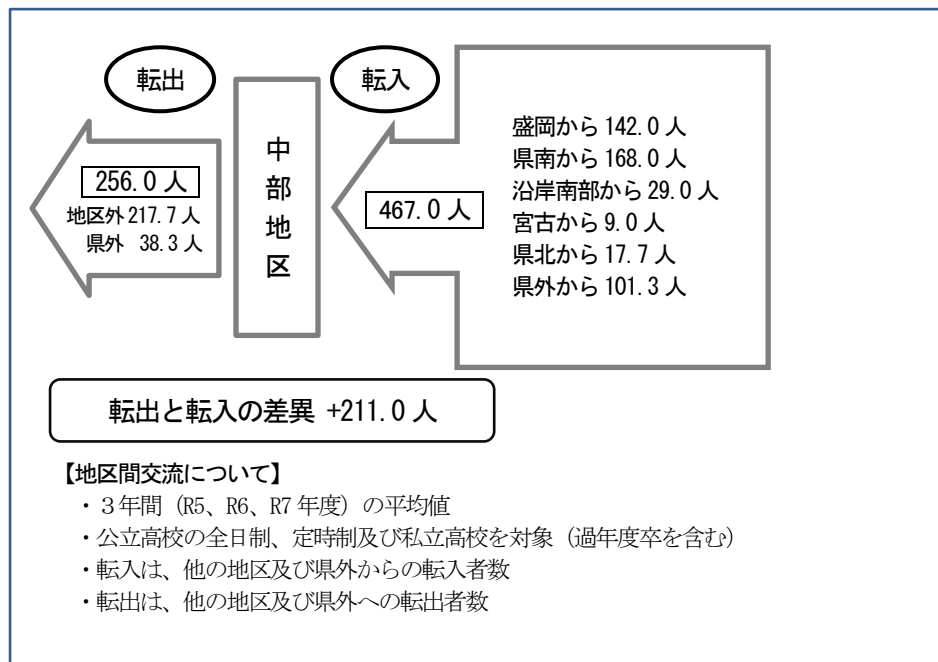
第3期県立高等学校再編計画期間(R8～R17)

※中段：対前年比、下段：対R7年比

	R7年3月	R8年3月	R9年3月	R10年3月	R11年3月	R12年3月	R13年3月	R14年3月	R15年3月	R16年3月	R17年3月	R18年3月	R19年3月	R20年3月	R21年3月
花 巻	713	734	688	704	719	691	660	656	686	578	532	513	481	452	397
		21	-46	16	15	-28	-31	-4	30	-108	-46	-19	-32	-29	-55
		21	-25	-9	6	-22	-53	-57	-27	-135	-181	-200	-232	-261	-316
*大 迫	15	18	18	21	19	16	17	11	24	12					
		3	0	3	-2	-3	1	-6	13	-12					
		3	3	6	4	1	2	-4	9	-3					
*石鳥谷	82	103	98	90	95	89	80	88	99	77					
		21	-5	-8	5	-6	-9	8	11	-22					
		21	16	8	13	7	-2	6	17	-5					
遠 野	186	182	171	181	188	143	157	124	139	138	127	123	111	102	91
		-4	-11	10	7	-45	14	-33	15	-1	-11	-4	-12	-9	-11
		-4	-15	-5	2	-43	-29	-62	-47	-48	-59	-63	-75	-84	-95
花巻地域	899	916	859	885	907	834	817	780	825	716	659	636	592	554	488
		17	-57	26	22	-73	-17	-37	45	-109	-57	-23	-44	-38	-66
計		17	-40	-14	8	-65	-82	-119	-74	-183	-240	-263	-307	-345	-411
北 上	819	804	774	764	793	768	731	739	682	649	637	564	540	515	496
		-15	-30	-10	29	-25	-37	8	-57	-33	-12	-73	-24	-25	-19
		-15	-45	-55	-26	-51	-88	-80	-137	-170	-182	-255	-279	-304	-323
西 和 賀	32	30	21	17	21	24	25	21	17	15	17	15	15	12	7
		-2	-9	-4	4	3	1	-4	-4	-2	2	-2	0	-3	-5
		-2	-11	-15	-11	-8	-7	-11	-15	-17	-15	-17	-17	-20	-25
北上地域	851	834	795	781	814	792	756	760	699	664	654	579	555	527	503
		-17	-39	-14	33	-22	-36	4	-61	-35	-10	-75	-24	-28	-24
計		-17	-56	-70	-37	-59	-95	-91	-152	-187	-197	-272	-296	-324	-348
中 部	1,750	1,750	1,654	1,666	1,721	1,626	1,573	1,540	1,524	1,380	1,313	1,215	1,147	1,081	991
		0	-96	12	55	-95	-53	-33	-16	-144	-67	-98	-68	-66	-90
地区計		0	-96	-84	-29	-124	-177	-210	-226	-370	-437	-535	-603	-669	-759

\* 合併前の旧市町村名（内数）

### 4 地区間交流の状況（3年間の平均）



## 5 入学者の推計 (R7. 5. 1 時点)

第3期県立高等学校再編計画期間(R8～R17)

学校	学級数	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21
花巻北	6	217	216	206	209	214	207	197	195	199	178	163	154	147	138	122
花巻南	5	179	186	176	176	182	174	168	164	165	148	139	131	124	116	104
花巻農	3	92	78	73	74	77	73	70	68	71	61	58	55	52	49	43
花北青	4	137	146	139	139	143	138	131	130	134	119	110	105	100	93	82
大迫	1	15	15	14	15	15	14	14	13	15	12	11	11	10	9	8
	参考値		19	18	18	18	18	17	16	18	15	14	14	13	13	11
遠野	3	108	90	85	88	90	73	78	65	75	68	63	60	55	51	46
	参考値		93	89	92	94	77	82	69	78	71	66	64	59	54	49
遠野緑	2	29	32	31	33	33	26	28	23	27	25	23	22	20	18	17
	参考値		32	31	33	33	26	28	23	27	25	23	22	20	18	17
黒北	6	196	210	202	198	206	199	191	191	178	168	164	147	141	134	126
	参考値		210	202	198	206	199	191	191	178	168	164	147	141	134	126
北上翔	4	126	136	133	129	132	130	126	126	116	112	108	98	93	89	84
	参考値		136	133	129	132	130	126	126	116	112	108	98	93	89	84
黒工	6	130	135	130	128	132	127	123	121	117	109	104	96	91	86	79
	参考値		136	130	128	133	128	123	122	118	109	104	96	92	87	80
西和賀	2	67	38	34	32	35	35	34	33	29	27	28	25	24	22	19
	参考値		42	38	36	39	39	38	36	33	31	31	28	27	25	23
計	42	1,296	1,282	1,223	1,221	1,259	1,196	1,160	1,129	1,126	1,027	971	904	857	805	730
必要学級	33		33	31	31	32	30	29	29	29	26	25	23	22	21	19
参考値計			1,294	1,235	1,232	1,271	1,209	1,171	1,140	1,137	1,037	980	914	868	816	741
参考値必要学級数			33	31	31	32	31	30	29	29	26	25	23	22	21	19

### 【入学者推計について】

- ・ R 7 は実績値（入学者数は、合格者数と異なることがある）
- ・ 過去3年間の入学実績、及び中学校卒業予定者数推移に基づいて算出したもの
- ・ 網掛けはR 7 年度募集定員より 40 名以上の欠員又は 20 名以下の見込みを示す
- ・ 「参考値」は県境隣接協定及びいわて留学における他県からの入学生の推計を加えた値



## 令和 7 年度の入試状況について（県立高校全日制）

年 度	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
中 学 校 卒 業 者 数	10,677	10,092	10,396	10,077	9,954	9,675
募 集 定 員	8,960	8,960	8,920	8,720	8,680	8,520
総 志 願 者 数	8,197	7,670	7,969	7,601	7,483	6,897
合 格 者 数	7,491	7,194	7,219	6,910	6,804	6,531
欠 員	▲1,469	▲1,766	▲1,701	▲1,810	▲1,876	▲1,989
調整後志願倍率	0.87	0.82	0.85	0.82	0.80	0.80



## 令和7年度岩手県立高等学校募集定員・合格者数等（全日制）

地区	学校名	大学科	学科・学系 ・コース	募集 定員	合格 者数	過不 足数	総志願 者数
盛岡	盛岡第一	普通・理数	普通・理数	280	287	7	331
	盛岡第二	普通	普通	200	195	▲ 5	196
	盛岡第三	普通	普通	280	286	6	324
	盛岡第四	普通	普通	240	246	6	298
	盛岡北	普通	普通	200	200	0	241
	南昌みらい	普通	文理	160	161	1	184
		普通	芸術	40	34	▲ 6	34
		普通	外国語	40	36	▲ 4	34
		普通	スポーツ科学	80	80	0	93
	盛岡農業	農業	動物科学	40	35	▲ 5	35
		農業	植物科学	40	13	▲ 27	12
		農業	食品科学	40	42	2	51
		農業	人間科学	40	35	▲ 5	28
		農業	環境科学	40	18	▲ 22	18
	盛岡工業	工業	機械	40	37	▲ 3	39
		工業	電気	40	40	0	40
		工業	電子情報	40	40	0	44
		工業	電子機械	40	38	▲ 2	39
		工業	工業化学	40	11	▲ 29	8
		工業	土木	40	36	▲ 4	37
		工業	建築・デザイン	40	40	0	42
	盛岡商業	商業	流通ビジネス	80	82	2	97
		商業	会計ビジネス	80	82	2	91
		商業	情報ビジネス	80	82	2	98
	沼宮内	普通	普通	40	21	▲ 19	22
	葛巻	普通	普通	80	42	▲ 38	42
	平舘	普通	普通	40	16	▲ 24	16
		家庭	家政科学	40	3	▲ 37	3
	雫石	普通	普通	40	39	▲ 1	41
	14 紫波総合	総合	総合	120	86	▲ 34	88
	花巻北	普通	普通	240	217	▲ 23	223
	花巻南	普通	人文科学・自然科学	120	115	▲ 5	113
		普通	スポーツ健康科学	40	40	0	42
		普通	国際科学	40	24	▲ 16	24
	花巻農業	農業	生物科学	40	36	▲ 4	38
		農業	環境科学	40	22	▲ 18	22
		農業	食農科学	40	34	▲ 6	34
	花北青雲	工業	情報工学	40	28	▲ 12	28
		商業	ビジネス情報	80	80	0	81
		家庭	総合生活	40	29	▲ 11	29
中部	大迫	普通	普通	40	15	▲ 25	15
	遠野	普通	普通	120	108	▲ 12	113
	遠野緑峰	農業	生産技術	40	21	▲ 19	21
		商業	情報処理	40	8	▲ 32	8
	黒沢尻北	普通	普通	240	196	▲ 44	205
	北上翔南	総合	総合	160	126	▲ 34	127
	黒沢尻工業	工業	機械	40	29	▲ 11	29
		工業	電気	40	25	▲ 15	27
		工業	電子	40	25	▲ 15	25
		工業	電子機械	40	24	▲ 16	26
		工業	土木	40	13	▲ 27	13
		工業	材料技術	40	14	▲ 26	13
	11 西和賀	普通	普通	80	67	▲ 13	69
	水沢	普通・理数	普通・理数	240	232	▲ 8	242
	水沢農業	農業	農業科学	40	18	▲ 22	19
		農業	食品科学科	40	12	▲ 28	13
県南	水沢工業	工業	機械	40	21	▲ 19	22
		工業	電気	40	20	▲ 20	20
		工業	設備システム	40	30	▲ 10	30
		工業	インテリア	40	17	▲ 23	17
	水沢商業	商業	商業	40	28	▲ 12	27
		商業	会計ビジネス	40	24	▲ 16	23
		商業	情報システム	40	40	0	44
	前沢	普通	普通	40	32	▲ 8	33
	金ヶ崎	普通	普通	80	20	▲ 60	20
	岩谷堂	総合	総合	120	81	▲ 39	81
	一関第一	普通・理数	普通・理数	200	200	0	213
	一関第二	総合	総合	200	202	2	217
	一関工業	工業	電気電子	40	38	▲ 2	41
		工業	電子機械	40	40	0	43
		工業	土木	40	19	▲ 21	22
	花泉	普通	普通	40	40	0	41
	大東	普通	普通	80	27	▲ 53	27
		商業	情報ビジネス	40	3	▲ 37	3
	千厩	普通	普通	120	78	▲ 42	80
		農業	生産技術	40	28	▲ 12	30
13		工業	産業技術	40	34	▲ 6	34

計 59

113学科（学系）

8,520 6,531 ▲ 1,989 6,897

※参考＜市立＞

学校名	大学科	学科・学系 ・コース	募集 定員	合格 者数	過不 足数	総志願 者数
盛岡市立	普通	特別進学コース	35	38	3	43
	普通	普通	160	164	4	194
	商業	商業	80	82	2	96
計 1			275	284	9	333





## 今後の県立高校に関する地域検討会議（第2回） 開催結果

## 1 実施時期

令和7年8月20日（水）～8月29日（金）の間（実施日は4 実施状況参照）

## 2 目的

「県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～」を踏まえ、各地区における高校のあるべき姿や地域の実情に応じた高校や学科の配置等について、地域の代表者等と意見交換（「地域検討会議」）を行い、次期県立高等学校再編計画の検討に資する。

## 3 第2回会議内容

- (1) 「第3期県立高等学校再編計画」（当初案）についての概要説明
- (2) 「第3期県立高等学校再編計画」（当初案）についての意見交換

## 4 実施状況

地区名	地区内の市町村名	実施期日	会場	出席者数				
				地区代表	県議会議員	地区校長等	傍聴者（報道）	地区計
盛岡 （盛岡①）	盛岡市、雫石町、葛巻町、矢巾町	令和7年 8月28日	サンセール盛岡	18	12	16	6	52
盛岡 （盛岡②）	八幡平市、岩手町、滝沢市、紫波町	令和7年 8月20日	サンセール盛岡	16	6	6	7	35
中部	花巻市、北上市、遠野市、西和賀町	令和7年 8月21日	東和総合福祉センター	18	6	12	13	49
県南	奥州市、金ケ崎町、平泉町、一関市	令和7年 8月26日	奥州市役所 江刺総合支所	17	5	15	13	50
沿岸南部	陸前高田市、大船渡市、住田町、釜石市、大槌町	令和7年 8月29日	陸前高田市 コミュニティホール	22	3	8	10	43
宮古	宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村	令和7年 8月21日	宮古地区 合同庁舎	19	0	7	11	37
県北 （県北①）	久慈市、洋野町、野田村、普代村	令和7年 8月20日	久慈地区 合同庁舎	17	3	5	5	30
県北 （県北②）	二戸市、一戸町、軽米町、九戸村	令和7年 8月22日	二戸地区 合同庁舎	13	1	5	10	29
計				140	36	74	75	325



## 今後の県立高校に関する地域検討会議（第1回） 開催結果

## 1 実施時期

令和7年5月20日（火）～6月5日（木）の間（実施日は4 実施状況参照）

## 2 目的

「県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～」を踏まえ、各地区における高校のあるべき姿や地域の実情に応じた高校や学科の配置等について、地域の代表者等と意見交換（「地域検討会議」）を行い、次期県立高等学校再編計画の検討に資する。

## 3 第1回会議内容

- (1) 「県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～」についての概要説明
- (2) 地域の高校に関する状況等の説明
- (3) 各地区における高校及び学科の配置の在り方等についての意見交換

## 4 実施状況

地区名	地区内の市町村名	実施期日	会場	出席者数				
				地区代表	県議会議員	地区校長等	傍聴者（報道）	地区計
盛岡 (盛岡①)	盛岡市、雫石町、葛巻町、矢巾町	令和7年 5月20日	岩手県水産会館	20	9	16	7	52
盛岡 (盛岡②)	八幡平市、岩手町、滝沢市、紫波町	令和7年 5月27日	岩手県公会堂	19	4	5	7	35
中部	花巻市、北上市、遠野市、西和賀町	令和7年 5月23日	花巻市定住交流センター	20	7	12	19	58
県南	奥州市、金ヶ崎町、平泉町、一関市	令和7年 5月28日	奥州市役所 江刺総合支所	20	9	11	15	55
沿岸南部	陸前高田市、大船渡市、住田町、釜石市、大槌町	令和7年 6月4日	三陸公民館	22	1	9	8	40
宮古	宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村	令和7年 6月5日	宮古地区合同庁舎	19	2	7	18	46
県北 (県北①)	久慈市、洋野町、野田村、普代村	令和7年 5月26日	久慈地区合同庁舎	16	2	5	9	32
県北 (県北②)	二戸市、一戸町、軽米町、九戸村	令和7年 5月23日	二戸地区合同庁舎	18	2	5	11	36
計				154	36	70	94	354



## 地域検討会議（第2回）の主な意見等

地 区	開催日	主な意見・提言等
盛 岡 ① (盛岡市、雫石町、 葛巻町、矢巾町)	令和7年 8月28日(木) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当初案において、1学級校の地域で果たす役割の重要性を考慮し、地域校を位置付けたことに感謝している。</li> <li>・ 高校の統廃合により、生徒の通学時間や交通費等が増えることが懸念されるが、教育の機会の保障という計画の趣旨に反するのではないかと。</li> <li>・ 当初案においては生徒の通学負担の増加が懸念されるという印象を持った。</li> <li>・ 学びを集約することにより、公共共通機関で通学できない生徒が増えることが予想されることから、寮や下宿の整備を検討する必要があるのではないかと。</li> <li>・ 地域産業を担う人材の育成は、住民生活や地域振興にも大きな影響を与えるものであることから、地域課題を具体的に学ぶ学科やコースの設置、教育課程の弾力的な編成を今後も検討していく必要があると感じているところ。</li> <li>・ 当初案については、これまでの議論を通じて地域の声が反映され、小規模校への配慮も一定の納得が得られると評価する。</li> </ul>
盛 岡 ② (八幡平市、岩手町、 滝沢市、紫波町)	令和7年 8月20日(水) 14:30～16:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平舘高校および大船渡東高校の家庭系学科の募集停止により、県内の家庭系学科が2校のみとなる可能性があり、家庭科教育の将来に不安を感じている。</li> <li>・ 少子高齢化や教員不足が進む中、ある程度の高校再編はやむを得ないと考える。特に専門高校については、センター・スクールの設置が必要という考えに賛同する。</li> <li>・ 少子化だけでなく、社会の変化を見据えた高校再編が必要であり、単なる人数調整ではなく将来を見据えた視点が重要だと感じている。</li> <li>・ 今回の第3期県立高校再編計画案は、地域産業や子どもたちへの配慮が感じられ、非常に評価している。</li> <li>・ 平舘高校の家政科学科について、令和9年度からの募集停止ではなく、状況を見ながら判断する猶予を設けてほしい。</li> <li>・ 再編計画については、生徒数の減少を踏まえるとやむを得ないと感じているが、地域に学校や学科がなくなった場合、郷土を支える人材育成が困難になるのではないかと不安がある。</li> </ul>
中 部 (花巻市、北上市、 遠野市、西和賀町)	令和7年 8月21日(木) 14:30～16:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 花北青雲高校の情報工学科は、他の工業系以外の学科と交流があり柔軟な教育ができ、岩手県内、花巻市内に就職する生徒が多く、計画に記載されている企業の求める人材を養成するという観点からも非常に重要である。</li> <li>・ 黒沢尻工業高校については、令和9年度に既存の1学科を半導体関連の学科に再編するという事で、地域の産業構造の観点から一定の評価をしている。</li> <li>・ 花北青雲高校に関しては、地域や地域産業担う人材を供給できる大事な学校であり、工業のバランスだけで募集停止としていいものか疑問がある。</li> <li>・ 地域校という位置付けは、現在大規模な高校もいずれはそのような話になってくると思われ、地域と一体となって学校をより良くしていくことが重要である。</li> <li>・ 地域校について、1学級校もできる限り維持するという現行計画の考え方を大切にいただいたことに感謝する。</li> <li>・ 専門学科については、物づくりという観点で、県として専門高校への魅力を高めるためのキャリア教育をさらに先導する必要があるのではないかと。</li> </ul>

地 区	開催日	主な意見・提言等
<p>県 南</p> <p>(奥州市、金ケ崎町、平泉町、一関市)</p>	<p>令和 7 年</p> <p>8 月 26 日 (火)</p> <p>10:00～12:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大東高校の学級減等の判断は、令和 8 年度からの新計画からの地域の取組や結果を踏まえて行うべき。令和 9、10 年度の入試結果を見た上で、複数年の数値から判断するべきではないか。</li> <li>近年の人口減少を鑑みると高校の再編もいたしかたないと思うので、地域住民に理解のある再編計画にしていきたい。</li> <li>下宿や寮など通学支援の体制整備を検討するなど、地元の子どもたちにとって通いやすい環境を整えて頂きたいと思う。</li> <li>杜陵高校奥州校は、不登校傾向や特別な配慮を必要とする生徒の受け皿として貴重な存在である。そのような高校が移転となると奥州市の生徒で一定数通学を断念する生徒が出てくるのではないかと懸念している。</li> <li>金ケ崎高校の水沢高校への統合について、今後、金ケ崎高校を希望する生徒が不利益を受けることのないよう、従来と同じ条件で安心して入学できる体制を整えていただきたい。</li> <li>1 学年 1 学級の花泉高校を「地域校」と位置付けて学びの保障を図ることは、特例校との区別を明確にし、評価できる。</li> </ul>
<p>沿岸南部</p> <p>(大船渡市、陸前高田市、住田町、釜石市、大槌町)</p>	<p>令和 7 年</p> <p>8 月 29 日 (金)</p> <p>10:00～12:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>沿岸部の人口減少や少子化の背景は東日本大震災の影響がある中、当初案に東日本大震災の影響を考慮する文言がない。</li> <li>大船渡東高校の食物文化科の募集停止については承服いたしかねる。大船渡市として水産の街を謳っている中、事業者と生徒が共同した取組ができるというのは大きな強みであり、そのような中、食物文化科が募集停止となるのは理解できない。</li> <li>地域や地域産業を担う人材の育成という観点から、高田高校の海洋システム科の募集停止については強く反対する。</li> <li>少人数では教育の質が保てないことが懸念される。統合や集約はビジョンを持って進め、専門性の確保や環境整備も考慮すべきである。</li> <li>水産及び調理師養成施設の集約については、気仙地区から宮古市への通学は難しいため、保護者の負担を軽減するために寮や下宿の整備を検討していきたい。</li> <li>今回の当初案については、地域校の位置付け等、小規模校を残す方針が示されたことはうれしく感じている。</li> </ul>
<p>宮 古</p> <p>(宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村)</p>	<p>令和 7 年</p> <p>8 月 21 日 (木)</p> <p>9:30～11:30</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 学級校の募集停止の基準について、入学志願者の数が 2 年連続して 20 人以下となった場合、原則として翌年度から募集停止とすることとしているが、夢や希望が持てるように、もう少し柔らかな表現に検討できないか。</li> <li>宮古水産高校に、水産と調理師養成施設の学びを集約することについては、人口減少、生徒数の減少の中においては、教育や設備を集中し、宿泊施設を整備することにより、子どもたちの教育の質の向上や、水産関係の後継者育成に繋がるものと評価している。</li> <li>水産の学びなどの集約は賛成である。南北に長い本県にとって、集約して教育の質を上げるということは非常よいと思う。</li> <li>子どもの学びの場の確保、統廃合による子どもや保護者の負担等の課題に対応するため、寮を含めたサポートの在り方について検討いただきたい。</li> <li>計画において、「望ましい学校規模を設定しない」と明記されている点は、地域の実情に配慮した柔軟な姿勢として非常に評価できる。</li> </ul>
<p>県 北 ①</p> <p>(久慈市、洋野町、野田村、普代村)</p>	<p>令和 7 年</p> <p>8 月 20 日 (水)</p> <p>9:30～11:30</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>久慈翔北高校は本年 4 月に統合されたばかりであり、水産系列および調理師養成施設の廃止は、生徒の選択肢を狭めることにつながると懸念されている。</li> <li>地元で学びの場があることは、保護者にとっても重要であり、教育機会が少ない地域からは人が離れてしまう懸念がある。</li> <li>生徒数の減少による学級減はやむを得ないが、学校減は地域や子どもたちの将来に大きく影響するため、慎重な判断を求めたい。</li> <li>子どもを主語とした教育の視点を大切にし、進路の選択肢を狭めないような工夫を求めたい。</li> <li>水産や家庭科の学びが宮古に集約されると、これまで希望していた生徒が進路を変更する可能性が高く、地域から該当分野を志す生徒が減少することが懸念される。</li> </ul>

地 区	開催日	主な意見・提言等
<p>県 北 ②</p> <p>(二戸市、軽米町、 九戸村、一戸町)</p>	<p>令和7年 8月22日(金) 14:30～16:30</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高校再編が学校の集約や規模の縮小に終始することなく、学校現場や、部活動の充実、或いは生徒数確保という基本的な取組についても併せて行っていただきたい。</li> <li>・ 募集停止の基準については、原則ということであるが、地域との丁寧な協議をお願いしたい。</li> <li>・ 子どもの数が絶対的に減っていく中で、先を見据えた校舎改修や、建て替えを検討してもらいたい。</li> <li>・ 人口が減っている中、学級減については仕方がないことと理解している。</li> <li>・ 小規模校の存続にあたっては、いわて留学が非常に有効な手立てだと考えている。以前から繰り返し話しているが、生徒募集の条件について、入試条件の一層の緩和や条件整備を進めて欲しい。</li> <li>・ 学校規模については、本県の広大な県土、地理的条件等を鑑みて、どの地域の子どもたちも等しく教育を受けられる環境を整えることが大事だと思っている。</li> </ul>





## 地域検討会議（第 1 回）の主な意見等

ブロック	開催日	主な意見・提言等
盛岡 ① (盛岡市、雫石町、 葛巻町、矢巾町)	令和 7 年 5 月 20 日 (火) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>国の就学支援金の所得制限撤廃により、進学費用の面でハードルが下がり、中学生が私立高校に進学しやすい状況になることが予想される。少子化に伴い、生徒数の減少が進む中、私立高校との共存や定員調整についての慎重な議論が必要になると感じている。</li> <li>中学生の進路の選択肢を閉ざさぬよう、今後、1 学級校の在り方については、柔軟な対応が大切である。また、盛岡市一極集中を是正する募集定員の調整や、私立高校と募集人数の調整等の検討も必要である。</li> <li>高校には、地元の産業ニーズに応じた人材育成を進めて欲しいと感じており、地元根付いた産業の専門コースを設置することもよいのではないかな。</li> <li>充実した高校生活を保障するためには、高校の適切な規模を維持する必要があると感じている。県立高校再編計画の策定の際にはその点も踏まえて慎重に検討していただきたい。</li> <li>地域課題の解決に向け、知事部局や産業界と協力し、人材育成をより戦略的に進めるべきだと考えている。その際に、専門高校の担う役割は非常に重要である。</li> </ul>
盛岡 ② (八幡平市、岩手町、 滝沢市、紫波町)	令和 7 年 5 月 27 日 (火) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>現計画において 1 学級校の入学者数が 2 年連続で 20 人以下の場合は原則として統合とされている一方、1 学級校も含めた各地域の学校をできるだけ維持するということが記載されている。次期県立高校再編計画においても、この方針を継続していただきたい。</li> <li>今後、生徒数が減少する中、生徒が自分の将来に向けて多様な学びを選択できる環境や、県内各地域の特色を生かした学びの環境を引き続き作っていただきたい。</li> <li>今後の教育政策を考えたときに、公立と私立の共存に踏み込まなければ、根本的な問題解決にはならないのではないかな。</li> <li>地域産業の伝承や人材育成に向けた学びを充実させるため、専門高校の教育内容を地域産業と連携させ、専門分野に特化した学びの場を作る等、専門高校を差別化、個別化していくことが必要ではないかな。</li> <li>国の制度として総合学科が設立されて約 20 年が経過したところであり、県としてその在り方を検討する時期に入っているのではないかな。</li> </ul>
中 部 (花巻市、北上市、 遠野市、西和賀町)	令和 7 年 5 月 23 日 (金) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>医学部進学に関しては、県内志願者の学力の課題が指摘されており、中高一貫教育等を通じた学力向上が不可欠であると考ええる。</li> <li>黒沢尻工業高校のように、半導体などの最先端分野に対応した独自のカリキュラムを導入する学校の取組を評価し、今後は志願者増と理工系人材の育成に繋がるよう専門学科の魅力化及び充実を求めたい。</li> <li>専門高校において、子どもたちが進んで通いたくなるような、特色ある高校づくりを進めて欲しい。</li> <li>少子化に伴い定員割れが常態化する中で、受検に対する緊張感やモチベーションが薄れている。定員の見直しや競争率の適正化によって学習意欲を高める工夫が必要ではないかな。</li> <li>各学校が独自性を持ち、ブランド化していくことが求められる。地元教育委員会としても小中学校と連携し、地域全体で教育の質を高める取組を進めたい。</li> <li>不登校・不適應の生徒の進路確保が課題であり、小規模校による温かい対応や学びの多様性へのニーズが高まっている。チャレンジスクールの公立での拡充が望まれている。</li> </ul>

ブロック	開催日	主な意見・提言等
<p>県 南</p> <p>(奥州市、金ヶ崎町、平泉町、一関市)</p>	<p>令和 7 年</p> <p>5 月 28 日 (水)</p> <p>10:00～12:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 私立高校への進学率が 15.7%に達しており、授業料無償化や魅力向上策によって公立高校からの流出が懸念される。今後は、人口減少と公立高校への進学者数減少の影響を踏まえた公立高校の戦略的対応が求められる。</li> <li>・ 農業、工業、商業などの専門高校は、地域の基幹産業を支えるために重要な役割を果たしている。最新設備の導入や学科の最適化などを通じ、地域産業の人材育成に貢献できる環境整備を進めることが重要である。</li> <li>・ 今後、高校を再編する場合は、生徒の学びを保障するために、学びの地域バランスに配慮しながら進めていただきたい。</li> <li>・ 人口減少と少子化の影響を受け、中学生の進路選択の多様性を確保するために、県立高校の再編を 6 地区の広域化で検討する必要性を認識している。</li> <li>・ 生徒やその保護者の希望する学びと地元自治体が希望する学びが一致しておらず、乖離が見られる。また、農業や工業等を専門的に学んでも、地元就職するとは限らず、県外就職の割合も多くなっている。専門教育の在り方の再考、カリキュラムの再編が必要ではないかと感じている。</li> </ul>
<p>沿岸南部</p> <p>(大船渡市、陸前高田市、住田町、釜石市、大槌町)</p>	<p>令和 7 年</p> <p>6 月 4 日 (水)</p> <p>14:00～16:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医師となる人材を地域で育成していくという観点から、医学部進学コース等を設置し、医療人材育成にも取り組んでいただきたい。</li> <li>・ 1 学級校もできる限り維持するという後期計画の考え方について、次期再編計画でも踏襲していただきたい。</li> <li>・ 少子化等の影響を考えると、県立高校の再編は絶対に必要だと考えるが、単に人数により統合するのではなく、ビジョンを持った統合としてもらいたい。</li> <li>・ 地域みらい留学や地域連携コーディネーターの導入は学校の活性化に有効だと考える。学校の運営を教員だけに任せず、自治体と連携した支援が重要である。</li> <li>・ 中学校の不登校生徒の増加に伴い、定時制、通信制高校の選択肢を拡充すべき。また、沿岸地域に定時制と通信制併設校を設置し、生徒の選択肢を増やすことが必要ではないか。</li> </ul>
<p>宮 古</p> <p>(宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村)</p>	<p>令和 7 年</p> <p>6 月 5 日 (木)</p> <p>10:00～12:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域から高校が無くなることは、保護者の通学負担増や町外流出等の問題を抱えることになる。東日本大震災の被災による人口減少が大きい地域については、他の人口減少地域と同一視して再編を進めないように留意していただきたい。</li> <li>・ 学区は盛岡地区への一極集中を防ぐために設定されているものと理解していたが、盛岡地区でも生徒数減少が進む中、学区制の撤廃により県内全域で自由に進学できる仕組みを検討するべきではないか。</li> <li>・ 高校教育の在り方を考える際には、地域の産業に適した学科配置となるよう検討していただきたい。</li> <li>・ 専門高校の魅力を感じる機会がないまま普通高校への進学が一般化しているのではないかと。地元に残りたい生徒のためにも、工業、商業高校の価値を高め、進学の選択肢として魅力を持たせるべきである。</li> <li>・ 定時制、通信制高校について、今後、多部制や単位制のニーズが増えてくると予想される中、沿岸地区にも多部制、単位制の定時制高校が必要なのではないか。</li> <li>・ 小規模校、大規模校それぞれの特性を活かし、子ども中心の教育を推進していくべきである。</li> </ul>
<p>県 北 ①</p> <p>(久慈市、洋野町、野田村、普代村)</p>	<p>令和 7 年</p> <p>5 月 26 日 (月)</p> <p>14:00～16:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東北本線沿いと違い、盛岡の学校に簡単に通えるという状況ではないことから、子どもたちの学習機会を確保する必要がある。</li> <li>・ 中学校卒業業者について、5 年後には今年度と比較して 85%、10 年後には 60%を切るということを考えれば、普通科については集約していく必要がある。一方で、久慈地区の産業に合わせたアパレル関係、工業土木関係、水産関係といった学科の存続は必要だと考える。</li> <li>・ 少子化が進む中で、学校規模によらず、平等公平に高校教育を受けられるようにしてもらいたい。</li> <li>・ 定数を 35 人にすれば財政負担が生じると思うが、ドイツやアメリカのように 30 人程度にしていかなければ、将来、危機的状況になることを危惧している。</li> </ul>

ブロック	開催日	主な意見・提言等
<p>県 北 ②</p> <p>(二戸市、軽米町、 九戸村、一戸町)</p>	<p>令和 7 年 5 月 23 日(金) 14:30～16:30</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 学級の定員を 40 人から 35 人に出来ないか、検討していただきたい。</li> <li>・ どうすれば地元の中学生在が地元の高校に進学するのかを考えたときに、学習面で差が出ないような施策が必要なのではないか。</li> <li>・ 各地域に高校を 1 校は維持した上で、地域の生徒が地元の高校を選ぶために、地元の高校の魅力を発信していただきたい。</li> <li>・ 遠隔教育を小規模校に限らず進めることで、科目開設の幅が広がるのではないかと。また、教員の複数校勤務、きめ細やかな指導の導入を検討すべきではないか。</li> <li>・ 医師確保や IT 人材の育成も重要であるが、小規模校で行われている、一人一人に寄り添った教育も重要であり、そのような学校を必要としている生徒も増加している。</li> <li>・ 小規模校だからこそ遠隔教育においても教員の丁寧なフォローがあるとか、学校間連携を可能にするとか、教育条件の改善を早急に進める必要がある。</li> <li>・ 高校の授業料無償化や併願制の導入により小規模校の存続が厳しくなる。入学者数が 2 年連続 20 人以下となった場合、募集停止となる基準の適用については、より慎重に検討していただきたい。</li> </ul>



**今後の県立高校に関する地域検討会議（第2回）（中部地区）**  
**意見交換の記録（要旨）**  
**【花巻市、北上市、遠野市、西和賀町】**

令和7年8月26日（火）

東和総合福祉センター 大ホール

**■ 意見交換**

**上田 東一 花巻市長**

- ・ 1学級校を地域校として計画の中に位置付けたのはよかった。その中で、大迫高校に関しては、小規模校を選択して市内や県外から生徒が入学している特色のある学校であり、令和8年度に募集停止しなかったことについて評価する。今後も学校の必要性を考慮していただきたい。
- ・ 花北青雲高校については非常にショックである。黒沢尻工業高校の電子科を1学級減らして花北青雲高校の情報工学科を設置したから今回はそこを減らすというのは、あまり説得力のある議論ではない。花北青雲高校の情報工学科は、他の工業系以外の学科と交流があり柔軟な教育ができ、岩手県内、花巻市内に就職する生徒が多く、計画に記載されている企業の求める人材を養成するという観点からも非常に重要である。1学級の募集停止基準の20名以下を考慮せず、再来年度から募集停止というのは行き過ぎで、もう少し様子を見ていいのではないか。
- ・ 中高一貫教育については、地域の中学校の統合に結び付くという懸念があるが、花巻市に関しては影響が少ないと思われる。例えば、1学年10人程度の中学校のある地域から附属中学校に進学する生徒は1人か2人程度なので、より多くの中学校を統合するのではないかと心配しなくてよい。医学部への進学者数を増やすという課題を解消するためにも、中高一貫校の設置を進める必要があるのではないか。

**八重樫 義正 北上市副市長**

- ・ 北上管内は、人手不足が深刻で工業系の人材育成の期待が大変高い状況にあり、黒沢尻工業高校については、令和9年度に既存の1学科を半導体関連の学科に再編するという事で、地域の産業構造の観点から一定の評価をしている。
- ・ 工業系学科の充足率が低下する中で、高校の特色化・魅力化の取組が重要と認識しており、高校の進路選択の取組として、地元教育委員会や建設業協会と連携することによるキャリアプランの強化が必要ではないか。
- ・ 黒沢尻北高校の志願者の減少については、中部地区において、同じく進学の割合が高くかつ同規模の花巻北高校への志願者の動向がどのように影響するかについて、機会をとらえてお知らせいただきたい。

**多田 一彦 遠野市長**

- ・ 社会状況を鑑みると、計画の考え方は必然という思いがあるが、遠野市にとって遠野緑峰高校は生徒数以上に大事な高校で、地域の活動や海外との交流活動を評価しており、その精神を引き継いでいきたい。人口減少ゆえにやむを得ないという考え方ではなく、より良い教育を追求するという姿勢をなくしてはいけない。教育の根本は子どもたちにとってどうあるべきかであり、県と地域と一緒に学校の在り方を考えていく必要がある。
- ・ いわて留学は評価されており、さらに地域と学校が一緒になって魅力化について積極的に取り組み、お互いに強化すべきだと考えている。

### **内記 和彦 西和賀町長**

- ・ 計画の全体について、今の状況からするとその通りだろうと思われる。
- ・ ふるさと創生という視点で、地域の活性化に資する高校の役割という位置付けをより明確にしておき、さら進めていただきたい。
- ・ いわて留学は、地域にとって大きい拠り所としており引き続き多角的な支援をいただきたい。
- ・ 小規模校と地域の実情を生かした考え方が示されており、西和賀高校では特色ある学びを地域との交流の中で様々実施しているが、基本となるのは学力向上に資する教育の充実であると考えており、教員の配置について配慮いただきたい。

### **佐藤 良介 花巻商工会議所 副会頭**

- ・ 花巻地区も少子化が進んでおり、人材確保が喫緊の課題であるが、花北青雲高校は地域の産業界に人材を供給している学校である。花北青雲高校の生徒は地元志向が強く、産業界としても情報工学科を存続して企業に役に立つ人材の育成に当たっていただきたい。特に最近はIT化やAIが重要となり、ますます情報工学が必要になってくる。
- ・ それぞれ地域性を生かした特色化・魅力化に取り組んでおり、探究学習での地域課題への取組が将来の地域貢献活動に繋がると大いに期待している。

### **新淵 伸彦 農事組合法人リアル 代表理事**

- ・ 情報工学科は男子が多いクラスで、学科の募集停止をすると男子の部活動を削減しなければならないのではないか。バトミントン部はインターハイに出場するなど力を入れており、情報工学科に多くの生徒が在籍している。そのような中で、部活動をどのように考えているのか伺う。
- ・ 黒沢尻工業高校の電子科も定員割れをしており、元々黒沢尻工業高校の電子科を学級減したからという考え方ではない再編の方法はないものか。黒沢尻工業高校の半導体学科はかなり人気が出ると思われ、このまま情報工学科を募集停止とすると花北青雲高校の男子生徒が大幅に減少する懸念がある。

### **桶田 陽子 農事組合法人宮守川上流生産組合 代表理事組合長**

- ・ 遠野緑峰高校においては、農場、牛舎、農業機械等の管理について配慮いただきたい。
- ・ 実習する場所が物理的に遠くなることで、日々の観察が疎かになり、農業への興味・関心の育成が進まないのではないかと懸念している。
- ・ 遠野緑峰高校の特徴として特色あるプロジェクト活動が行われており、農業科と情報科が協働した学習がされている。統合後も商業分野を関連させた農業の学習を進めて欲しい。

### **酒本 涼子 サロン・ド・愛**

- ・ 西和賀高校は今年度から2学級になり、今後は学級数の維持に期待しているが、岩手県全体で生徒が減少している中で、生徒の確保の難しさを感じている。
- ・ いわて留学は、これから他の小規模校も取組を進められると思われる中で、小規模校に通いたいという生徒は増えている一方、地域や学校がどのように生徒を受け入れるかを全国の生徒や保護者の方たちは見ていので、さらに私たちは勉強しなければならない。
- ・ 西和賀高校と町の商工会が弁当を商品化する計画を立てているなど、地域と高校が協働していくことが大切で、生徒が入学してよかったと思えるように地域も努力していかなければならない。

### **峯村 諭 花巻市PTA連合会 副会長**

- ・ 大迫高校は地域校として存続することになるが、教育上特別な支援を必要とする生徒を含めて様々な生徒が在籍している。そのような生徒が伸び伸びと学習をする特色ある学校が設置されていることは、地域にとって価値のあることである。県外からの受け入れやインクルーシブな教育環境は、共生社会の考えからもちで、このような役割を持つ学校は今後必要だと思う。
- ・ 花北青雲高校に関しては、地域や地域産業担う人材を供給できる大事な学校であり、工業のバランスだけで募集停止としていいものか疑問がある。総合的な専門高校としての役割を深める方向もあるのではないかと。また、資料に関して卒業後の進路を示していただきたい。

### **小原 忍 北上市和賀東中学校PTA 会長**

- ・ 地域の少子化をまざまざと感じているところで、地域校という位置付けは、現在大規模な高校もいずれはそのような話になってくると思われ、地域と一体となって学校をより良くしていくことが重要である。

### **北川 祥樹 遠野市PTA連合会 会長**

- ・ 遠野高校と遠野緑峰高校が統合することになり、人口減少の影響で致し方ないという気持ちもある。その中で、計画でバス運行を想定していないことについて、距離が近い高校ではなく、自転車で30分程度はかかるような場所なので、部活のことも考えればスクールバスを運行できないか検討していただきたい。
- ・ 他の統合では、独立校舎型校舎制をとっている場合もあるが、生物を育てている関係上、実習移動型校舎制で校舎に行かない日があると、生育状況を把握できない可能性があるため、独立校舎型校舎制を考慮しなかったのか伺う。
- ・ 1学級の定員について、これから生徒数が減っていく中で、本当に1学級40人が適正なのか。定員は国が示しているものだと思うが、岩手県独自に1学級35人や30人にすることによって、一人一人の生徒に対して手厚い授業ができるのではないかと。

### **佐藤 勝 花巻市教育委員会 教育長**

- ・ 地域校について、1学級校もできる限り維持するという現行計画の考え方を大切にさせていただいたことに感謝する。大迫高校においては、県外から入学してきた生徒、地元で頑張りたい生徒、中学校時代に事情を抱えていた生徒など、様々な生徒が在籍し、先生方が地域と一体となって個に応じた指導をしてくださっている。市としても、大学進学を希望している生徒に対して進路達成に向けた個別の学習の支援策を拡大したところであり、今後も一人一人の進路実現については応援していきたい。県においては、計画での考え方を継続していただき、伴走支援をお願いしたい。
- ・ 計画に併設型中高一貫教育を明記したことについては評価するが、既に一関第一高校の検証結果が明らかになったのであれば、積極的に、早期に取り組むことを期待する。県政課題でもある専門的な知識を持つ人材の育成の解決にもなり、今後生徒数減少の影響が強いと思われる普通高校の学級減に対する解決の切り口になるのではないかと。
- ・ 岩手の未来を担う人材育成の中で地域産業を担う人材の育成は極めて重要なことで、中部地区の産業振興を図る上で、計画における工業学科の取扱いについて、半導体関連や自動車関連産業を見据えた在り方に特化している印象を受ける。花北青雲高校情報工学科は、地元企業への就職、大学進学、公務員志望、教員志望、様々な進路選択を視野に入れた指導をしている。教育課程では、情報工学の生徒が、商業科や家庭科の科目を選択できる。部活動が活発である等、様々な動機で入学してくる生徒がおり、市外から入学する生徒も多い。
- ・ 花北青雲高校の情報工学科は、黒沢尻工業高校の電子科から分離したという説明であったが、現

在は校風が全く異なるものになっているのが現実である。

- ・ 情報工学科の今年度の入学者は 28 人で充足率 70%だが、高校全体では 86%という高い数値であるのに対して、黒沢尻工業高校の充足率は 55%である。黒沢尻工業高校は、センター・スクールとしてこれから期待されていくことと思うが、半導体関連学科の設置等の評価を踏まえて、情報工学科の募集停止を検討してもいいのではないか。
- ・ 専門学科については、物づくりという観点で、県として専門高校への魅力を高めるためのキャリア教育をさらに先導する必要があるのではないか。
- ・ 中部地区の工業学科が話題になっているが、県南工業の計画が延期された。中部地区と県南地区は隣接しており、どちらのセンター・スクールにも影響があることを考えると、花北青雲高校で工業の学びの配置バランスを考慮するというのは理解できない。単なる工業系の数合わせという印象を受けるので募集停止を再考していただきたい。

#### **船田 浩 北上市教育委員会 教育長**

- ・ 黒沢尻工業高校の半導体関連への学科再編は非常に大きなものと捉えている。北上市に設置された、いわて半導体関連人材育成施設（I-SPARK）は、企業人材の技能・知識の教育の場として期待が寄せられており、高校の半導体関連学科と互いにより影響を与えつつ、北上市の地域振興やまちづくりの方向性と軌を一にし、北上市らしい生涯学習体系を形づくると考えている。この時期に半導体関連の学科と施設の 2 つができるのは、非常に大きなことで、北上市における黒沢尻工業高校の存在感が高まるという期待を持っている。
- ・ 西和賀高校は北上市の中学生にとっても大切な進路の選択肢の 1 つで、まちづくりや北上線の存続に大きな影響があるので、小さな町で高校の魅力化をここまでできるというモデル校として今後も大事にしていきたい。

#### **佐々木 一人 遠野市教育委員会 教育長**

- ・ 遠野緑峰高校の生産技術科は、地域人材や地域の食材を活用してきており、統合することにより、学びの質の低下が危惧される。農業を学びたい強い意志を持った生徒が安心して学べる環境を整備して、農業を担う人材育成に力を入れていただきたい。
- ・ 農業施設・設備が現在と同等でなければ、農業を目指す生徒が他市町村へ流出する恐れがある。
- ・ 農業は生き物を取り扱うので、週に 1 回、2 回登校すればいいということではなく、日常的な維持管理が必要となることについて配慮していただきたい。
- ・ 遠野緑峰高校には、教育上特別な支援を必要とする生徒が多く在籍している点も配慮していただきたい。

#### **柿崎 肇 西和賀町教育委員会 教育長**

- ・ 西和賀町の公営塾では、様々な進路を目指して休日でも勉強している。また、インターンシップも行われており、町教育委員会でも受け入れており、高校と連携を密にしている。
- ・ 秋田県からいわて留学で入学した生徒は 3 年生になり、北上市の建設関係の企業への就職を目指して面接練習等に取り組んでいる。
- ・ 今回の計画では、特例校という名称がなくなり、地域校になったが、1 学級校を残す方針を示したことに感謝する。2 年連続で 20 人以下という基準はあるが、今後も自治体と高校が連携していきたい。
- ・ 校長先生が魅力ある高校を構築しようと努力しているので、校長先生がリーダーシップを発揮できる学校環境を作ることが大切である。また、思いがあっても教員が足りなければ実現は不可能なので、可能な範囲で多くの教員を配置していただきたい。
- ・ 西和賀町では、魅力発見ラボというもので、高校と町の企業が連携して商品開発事業等に取り組



んでいるので、いわて留学等も含めて様々な形で伴走支援をお願いしたい。

#### **横手 勝美 花巻市校長会（花巻市立花巻中学校長）**

- ・ 花北青雲高校の情報工学科は、総合的な専門高校の中で学科を横断して学ぶというスタンスがあるはずで、黒沢尻工業高校とは違う特色がある。また、部活動ではバトミントン部と卓球部を強化している。さらに、時代の先端の情報工学を志望する生徒が多い。このようなことを踏まえて、募集停止についてもう少し様子を見ていただきたい。
- ・ 大迫高校については、教育上特別な支援を必要とする生徒が多く在籍しているが、充実した学校生活を過ごしている。入学者数は2年連続20人に満たない状況ではあるが、今年度は大迫中学校にも志望している生徒がいるので、今後の志願者の数を見ながら判断いただきたい。

#### **堀村 克利 遠野市校長会（遠野市立遠野中学校長）**

- ・ 現在の遠野緑峰高校の学科の学び考慮して、第6次産業の理念を基に普通科と協働で探究をすれば、普通科の生徒も農業を学ぶことが可能ではないか。ただ、実習移動型の校舎制となることで、カリキュラムや学校運営が実際にどのようなになるのかを見越して計画することが大事だと思われる。
- ・ 生産技術科は、生徒が減少して以前のように米づくりや園芸などの様々な取組ができなくなっていると高校の教員から伺った。生徒数が増えれば活動が充実するかもしれないので、地域産業や中学生のニーズを考慮して取り組んでいただきたい。
- ・ 中部地区や釜石市の高校の学科改編や学級減は、遠野市の中学生の進路決定に大きく関わるので、様々な状況によって突然学級減となる場合は、生徒の経済状況等を考慮して進めていただきたい。

#### **加藤 建一 北上市校長会（北上市立南中学校長）**

- ・ 大枠としては県教育委員会の当初案に賛成である。年度ごとの志願状況に合わせて様々な見直し求められるこの過渡期に、住民心情に寄り添って当初案を提示したことに敬意を表する。
- ・ 地域校について、高校があることの地域のメリットは計り知れないが、存続するためには特色化・魅力化が必要であり、そのための当該高校の教員の負担を危惧している。
- ・ ここ5年ほどで中部地区の2つの私立高校の生徒数は、それぞれ100人以上増えており、西和賀高校の例も含めて何が要因なのか気になるところだが、簡単なことではないと思われる。
- ・ 当該高校の自助努力だけではなくて、市町村が高校を支えるのは素晴らしいことだが、その一方で、市町村立の小中学校への支援が不足することにならないようにしていただきたい。
- ・ 特別支援学級に在籍する生徒が増加傾向にあり、普通高校への進学が6割を超える現状で、インクルーシブ教育も重要だが、特別支援学級のない高校において特別支援のニーズは増えていることが予想される。それに対応して通級指導が増えているとは聞いているが、課題になるのは情緒障害の生徒の就労支援であり、精神障害者保健福祉手帳を取得して、就労枠の中で就職させる等のノウハウを特別支援学校から導入していただきたい。
- ・ 中学校で不登校を経験した生徒を受け入れるチャレンジ枠の拡充をお願いしたい。広域通信制高校が増えているが、地元の高校に進学し、将来的に地域の支援組織と繋がるのが、本人や地域社会にとって有用ではないか。

#### **西川 信明 学校教育室高校改革課長**

- ・ 部活動について、花北青雲高校では、今年滝沢市出身の生徒が2名入学し、バトミントン部で活躍している状況であり、部活動については何らかの対応は必要と考えている。
- ・ 遠野緑峰高校の独立校舎型校舎制について、カリキュラムを実際に試作したところ、1週間の中で1年生から3年生のいずれかの学年が遠野緑峰高校の校舎で学ぶことが想定される。飼育・栽培している家畜・農作物への対応については、職員の配置が必要であり、何らかの対応は必要と考え

ている。また、遠野緑峰高校の近くには遠野高校サッカー部の練習場があり、自転車で移動できる距離だと考えているが、冬期間の移動は何かしらの対応を検討させていただきたい。

- ・ 花北青雲高校の情報工学科について、専門高校については、一定の規模を確保して専門教育を充実させなければ、産業界を支えられない懸念があり、センター・スクールを設定して主要分野の教科を設置する高校に集約することが望ましいと考えたが、入学者が昨年度 35 人、今年度 28 人である状況を踏まえると時期尚早だったかもしれない。
- ・ 学級規模について、1 学級 40 人は国の高校標準法に基づいて設定しており、1 学級 35 人、30 人になると、その分の教員配置の予算について県の負担が増えることになる。県で取りまとめた行財政研究会の報告では、教育委員会は毎年 100 億円の赤字が出ていることが示されている。そのような中で、建設から 55 年以上経過した校舎の建替費用や教員以外の学校職員の配置費用の予算を講じたいと考えている。教育上特別な支援を必要とする生徒に寄り添う、かがやき支援員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、スクールサポートスタッフ等の教員以外に学校の運営に携わる職員の配置の充実が今後は必要になると思われる。また、地域や高校の特色化・魅力化を進める中で、教員は異動があり、地域と協働した取組を長期的に継続するのは困難であるため、地域連携コーディネーター等の地域と学校を結び付け、教員の負担を減らす職員の配置が必要だと考えている。
- ・ キャリア教育について、専門高校の魅力が小・中学生に伝わっていないことが懸念されている。これまで主に 7 月に 1 回だけ開催していた高校説明会を、中学生が進路を決める時期の 11 月にも開催する等複数回開催し、地域の生徒がより高校を理解できる取組をして欲しいという意見が他地区でもあり、引き続き検討したい。

#### **上田 東一 花巻市長**

- ・ 西川課長の説明はよかったと思う。花北青雲高校については、黒沢尻工業高校に新学科が設置され、これまで花北青雲高校の情報工学科を志望していた生徒にとっても魅力ある学科になるか検証しなければならない。また、新聞報道によると、県南工業の設置が早くても 6 年 7 年先になるということで、今回の計画において、その状況が分からないまま県南工業高校に学びを集約するために花北青雲高校の情報工学科を募集停止するのは無理があると感じる。
- ・ 中高一貫教育について、義務教育には影響がないと発言したが、誤解を招きかねないので説明すると、花巻市が想定している中高一貫校の併設中学校は 1 学年 1 学級から 2 学級で、花巻北高校の敷地に校舎を建設するものであり、市民の方々が心配されているような花巻市内の中学校を閉校するものではない。その中で、1 学年 1 学級から 2 学級の併設中学校が設置されたとしても、花巻市内或いは周辺市町の既存の中学校への影響は少ないのではないかとということである。

#### **西川 信明 学校教育室高校改革課長**

- ・ 水沢工業高校と一関工業高校の統合について、現行計画に位置付けている宮古商工高校と宮古水産高校の一体的整備を行っている最中だが、物価高騰で当初想定していなかった金額になることが見込まれる。また、もう一つ現行計画で位置付けているのが、盛岡工業高校の盛岡南高校校舎への移転であり、空き校舎を放置していれば老朽化が進むことから、速やかに大規模改修や産業教育施設の建設に着手する必要がある。これらには、相当の財政負担がかかり、すでに着手している事業に優先的に予算を投じた上で、水沢工業高校と一関工業高校の建設に取り掛かりたいと考えているので理解していただきたい。

#### **北川 祥樹 遠野市 P T A 連合会 会長**

- ・ 県教委で想定した遠野緑峰高校のカリキュラムを中学生や高校生にフィードバックして、意見を聞いてはどうか。

- ・ スクールバスに関しては、冬期間以外の運行も検討いただきたい。
- ・ 1 学級の定員は、国の基準なので岩手県独自では変更するのが難しいのであれば、人口減少が進んでいる他の道県と連携して国に強く要望していただきたい。
- ・ 高校では和式のトイレが多く、どうしても使用できない生徒がいるようなので、トイレの改修、洋式化を検討していただきたい。

#### **西川 信明 学校教育室高校改革課長**

- ・ 教員の人件費については毎年国に要望しているが、今回高校の授業料無償化に関係して何らかの影響があればいいと考えている。
- ・ 施設設備について、和式トイレを使用したことがない生徒が多いと聞いており、公立高校においてトイレ等の改修が必要と考えている。また、普通教室以外にエアコンが設置されていないので、これについても環境整備をしなければならないと考えている。

#### **多田 一彦 遠野市長**

- ・ エアコンやトイレ等は統合を機会に環境整備をしていただきたい。
- ・ ただ単に統合するだけではなく、教育方針や特色あるカリキュラムをしっかりと検討して魅力ある高校にしていきたい。

#### **西川 信明 学校教育室高校改革課長**

- ・ 遠野緑峰高校については、遠野市から多大な支援をいただき、台湾の高級スーパーへの生徒派遣等、農業の学びの環境を整えていただいていると認識している。今回、遠野高校と統合することによって普通科の生徒が農業に興味を持ってくれるのではないかと考えており、農業の第 6 次産業化等の発展的な仕組みを検討していきたい。

#### **酒本 涼子 サロン・ド・愛**

- ・ 現在、中学生は減少しているが、教育上特別な支援を必要とする生徒は増加しており、普通高校への進学者も増加しているので、その対応で教員が大変ではないかと懸念している。以前、西和賀高校に在籍していた生徒で、保護者と学校が相談して障害者手帳を取得し、就職できたという例がある。教員の意見を聞いて、多忙にならない方策を検討していただきたい。

#### **西川 信明 学校教育室高校改革課長**

- ・ 教育上特別な支援を必要とする生徒への対応は、教育課題の一つと認識しており、どのような形で生徒の支援ができるか、特別支援教育担当と連携して検討していきたい。

#### **八重樫 義正 北上副市長**

- ・ 毎年 100 億円の赤字とは、基準財政需要額を算定した金額以上に 100 億円プラスで県が支出しているということだとは思いますが、どのような意味合いか説明していただきたい。

#### **西川 信明 学校教育室高校改革課長**

- ・ 県立高校の財源は基本的に地方交付税で措置されており、生徒数や学級数の数から教員定数が決められ、教員定数に教員の単価をかけて算定されるが、現在、岩手県の教員の年齢層が高く、国で試算している標準的な教員の単価より岩手県は高く推移しており、それを積み重ねると標準より 100 億円多く人件費が掛かるということである。基準財政需要額の話をする、一般の方には伝わりにくいと考えたが、赤字という表現は誤解を与えてしまったかもしれない。